

「平成21年度機関評価結果」について

(平成21年度における実施状況)

| 評価の種類 | 評価者 | 評価の視点等 | 評価時期 |
|-------|------------------------|--|---------------------------------------|
| 内部評価 | 所内運営委員会委員11名 | (1) 事前評価(全課題): 昨年度の機関評価結果及び岩手県からの委託研究課題の再編を踏まえた研究課題の見直しに対応して、全課題を評価。 (2) 事前評価(研究計画変更): 「(小課題) 水稻における重要形質のゲノム育種法の開発(H21~25年度)」(担当: 遺伝学ゲノム学研究分野)に、「(細目課題) 良食味系統のゲノム育種」を追加する等の研究計画変更に対応して評価。 | ・平成21年5月(事前評価) ・平成22年1月(小課題計画変更評価) |
| 顧客評価 | 課題委託者及び成果活用者、共同研究者17機関 | 同上。内部評価と同じ視点で評価を受け、顧客と研究目標等の共有を図った。 | ・平成21年5月(事前評価) ・平成22年1月(小課題計画変更評価) |
| 学術評価 | 研究推進委員(学識経験者)5名 | 学術的な視点から評価をいただいた。 | 平成21年12月 |
| 役員評価 | 理事、評議員、監事12名 | 研究活動の成果、学術・内部・顧客評価の意見に対する対応、事業計画及び中期経営計画への意見の反映状況について評価をいただいた。 | 平成22年2~3月 |

役員評価における主な意見と、対応方針は次のとおりです。これらは、平成21年度機関評価の結果として、「平成22年度事業計画(案)」及び「県出資等法人に係る中期経営計画書」に反映しました。

1 「法人の基本理念」について

(主なご意見)

- (1) 県民生活の向上に資する県出資法人としてのミッションを着実に実行すること。
- (2) 法人の基本理念やミッションの理解を深める機会を多く持つべき。
- (3) 顧客ニーズ対応の研究(デマンドプル型の研究)を基本とすることは良いが、研究員に夢のある研究をやるチャンスを与えることや、研究員のキャリアアップにつながる学術的な研究とのすり合わせは、研究機関の継続性という観点からは大事なことであり、考慮すべき。

・従来の職員研修(4、11月)や今年度から実施している「理事長との対話」(7月)に加えて、中核研究員マネジメント研修として、MOT(Management of Technology、技術経営)研修を実施し、研究成果の出口を強く意識した研究展開に努めます。

・研究員の創意工夫による萌芽的研究や共通・基盤的な研究は、外部研究式の獲得により実施するとともに、学会発表や論文投稿等の研究員の実績づくりを支援していきます。

2 「機関としての研究目標及びそのための組織体制」について

〔主なご意見〕

- (1) 限られた研究資源の中、機関評価を踏まえた選択と集中を図り、県民に見える研究成果を早期に還元すること。
- (2) 顧客との連携を一層強化して、研究目標を明確にして取り組むとともに、研究目標の設定過程で、県以外のマクロ的な意見や経済的な視点を取り入れるなど、他機関との連携や情報交換、交流を強化すべき。

・平成21年度において県からの委託研究課題再編に伴う新規設定課題の事前評価(内部・顧客)、学術評価等を実施し、評価結果並びにいただいたご意見を踏まえ、適宜、研究内容等の見直しを行いました。

・研究実施においては、顧客ニーズに基づいた研究を推進し、県民生活の向上につながる研究成果を早期に還元しうよう、引き続き機関評価を通して進行管理を行います。

・研究成果の実用化においては、既存の組織であるリエゾンI等を活用し、他機関との連携を一層深めるとともに、研究ニーズの把握・調整においては、現在の部門別連携会議を拡充した、県関係研究機関以外の組織とも広く連携できるしくみづくりを進めてまいります。

3 「研究開発システム」について

〔主なご意見〕

- (1) 県民への「見える化」では、研究成果が県民生活にどう貢献するのか、一般の人にもわかりやすい言葉と方法で説明することが大事である。
- (2) 機関評価を踏まえ、改善のために十分努力しているが、「評価のための評価」や「評価疲れ」とならないよう、効率的な機関評価のあり方について、継続的に検討していくこと。

・当センターにおける取り組み内容、研究成果及びそれらの意義について、マスコミや一般公開等を通じ、平易によりわかりやすく広報していくとともに、これからの岩手を担う中・高校生を対象とした出前授業を引き続き企画し、バイオテクノロジー研究の理解促進等につながる支援を積極的に行ってまいります。

・機関評価については、組織運営、研究課題実施における顧客等のニーズ等を的確に捉え、その結果を次の実施計画に反映し、効率的な推進を図るうえで重要な取り組みであり、今後とも実施する方向ですが、実施にあたっては、研究業務の推進に過度な支障をきたすことがないよう、今後とも効率的な実施方法を模索し、構築してまいります。

4 その他

〔主なご意見〕

- (1) 10年、20年先に岩手の一次産業振興に結びつくような基礎的研究を目指してほしい。
- (2) 国際レベルの研究成果も出ているので、国際シンポジウム等を開催することにより、世界に向けて情報発信することが、県民のみならず東北の住民や科学を目指す若い世代の方の自身につながる。